



# 林野庁 里山広葉樹チームからの報告

令和8年2月24日

里山広葉樹利活用推進チーム



# 報告内容

- 1 令和7年度の活動内容
- 2 資源分析等の結果
- 3 プラットフォーム設立に向けて
- 4 広報活動



# 報告内容

## 1 令和7年度の活動内容

チーム長 鈴木 清史  
(木材産業課 上席木材専門官)

## 2 資源分析等の結果

## 3 プラットフォーム設立に向けて

## 4 広報活動



- 里山広葉樹利活用推進チームは、林野庁の有志職員により令和6年度から活動を開始。
- 令和7年度は約30名の職員が所属し、以下の体制により各ユニットが活動を実施。

里山広葉樹利活用推進チーム

地域別

北海道ユニット

東北ユニット

東日本ユニット

西日本ユニット

## ■ 全国ヒアリングの実施

(プラットフォーム設立に向けた情報収集と参画者集め)

情報集約

資源・施業ユニット

## ■ 広葉樹の資源分析

▶ 2 資源分析等の結果

## ■ 広葉樹施業情報（文献および試験地等）の整理

プラットフォーム  
設立準備ユニット

## ■ プラットフォーム設立に向けた準備活動

▶ 3 プラットフォーム設立に向けて

広報ユニット

## ■ SNS等による情報発信と広報ツール作成

「推し広葉樹」のアンケート

▶ 4 広報活動

支援策ユニット

## ■ 広葉樹の利活用・施業に関する支援策の取り纏め



森林所有者 素材生産者	9者
流通事業者	11者
加工事業者	40者
自治体・団体	13者
その他	8者
合計	81者



### サプライチェーン全体

- 広葉樹の供給は、特定の事業者からなる細いサプライチェーンを構成していることが多く、どこかが途切れると需要側の原料調達が困難になる可能性。
- サプライチェーンを太くしていくためには、多様な樹種・径級のものを需要別に仕分ける仕組み、素材生産・製材加工等の供給側のプレーヤーを増やすこと、供給側と需要側がともに歩み寄り広葉樹資源の有効活用に結び付けていくことが重要。また、供給側と需要側をつなぐコーディネーターが必要との指摘もあった。



### 資源量把握

- 広葉樹の資源量については、ほぼ情報がないのが現状。地域によってはリモートセンシング技術による資源量把握に取り組むなどの事例があった。



### 施業

- 広葉樹の伐採後は天然更新が基本であるが、やみくもに皆伐しては目的とする樹種がうまく育たず、資源の持続性が担保できないという声があった。
- 持続性を担保している事例としては、炭材の採取のためのウバメガシ林では、株立ちした幹のうち数本残しておく、再びウバメガシが優占する林になる。広葉樹施業の技術・知見の継承が必要との声も多かったが、体系的に纏まっていない現状。



### 素材生産

- 広葉樹の素材生産事業者が限られていることを指摘する声は多かった。一方で、針葉樹伐採の事業者が、新たに広葉樹伐採にも取り組む事例も見られた。
- 針葉樹との伐倒技術の違い、特に広葉樹は伐倒方向が読みにくいいため危険性を指摘する声は多かった。一方で、基本的な伐倒技術については針葉樹と広葉樹とで大きな違いはないとの声もあったところ。



### 製材・加工

- ・ 広葉樹を挽く製材工場が限られていること、広葉樹の乾燥技術が高度であることが、ボトルネックになっているとの声は多かった。一方、針葉樹挽きの製材工場が広葉樹の製材・乾燥にも取り組み始めている事例が見られた。



### 原木流通

- ・ 広葉樹の流通が盛んな北海道、東北では、価格の上昇傾向が継続。特に近年は、ウイスキー樽材の需要増などによりナラの人気が高まる傾向。このため、広葉樹流通が乏しいと考えられていた西日本でも取引が徐々に増えつつある。
- ・ 取引される原木のサイズは、付加価値の付く家具・フローリング向けでも直径22cm程度以上となっており、従来と比べると小径木でも取引対象となる傾向。
- ・ 広葉樹の流通拠点に関しては、針葉樹中心の原木市場やバイオマス材集出荷施設が、広葉樹材の取り扱いを始めている事例が見られた。



### 資金面

- ・ 製材工場の経営において、広葉樹は天然乾燥の期間が長く資金が寝てしまうので、特に自己資金に乏しい中小工場は取り組みにくいとの声は多かった。

### 需要の変化

- ・ 消費者の志向はかなり変化してきており、節や虫害の痕などもデザインとして受け入れられるようになってきている。
- ・ 虫害材を使うことがエシカル消費であることや、地域の広葉樹を使うことの良さなど、ストーリーを伝えることが重要との声も多かった。



**ヒアリングにご協力いただきました事業者・自治体・研究機関等の皆様、お忙しいところご対応いただき、誠にありがとうございました。**



# 報告内容

1 令和7年度の活動内容

2 資源分析等の結果

資源・施業ユニット長 天田 慎一  
(整備課 造林間伐対策室長)

3 プラットフォーム設立に向けて

4 広報活動



- 里山広葉樹利活用に向け、林野庁が全国の森林に4kmメッシュで約15,000のプロットを設定し、平成11年度から5年ごとに定点観測（モニタリング）を行っている森林生態系多様性基礎調査（NFI：National Forest Inventory）（第1期～第5期）の結果を活用し、全国的な広葉樹資源の状況（樹種別（大分類32種類（49種）・地域別）及び25年間の変化を分析。分析作業は（一社）日本森林技術協会に委託。

## 調査方法

NFIのCSVデータを活用し、資源量の分布・推移を以下項目別に適宜組み合わせながら、グラフ形式及びGISのメッシュ/ポイントデータ形式でマクロ的な分析を行う。調査項目は、樹種分布、胸高直径、本数、胸高断面積合計・蓄積量、枯損状況。

量的な分析とともに、分布状況については、GISを用いて視覚的に表現。

### 樹種別

有識者の意見を聴き、賦存量や需要等を踏まえ、広葉樹の樹種（大分類32種類（49種）に分けて行う

※詳細は後述

### 地域別

全国で上記樹種の分析を行ってみたうえで、必要に応じて地域別の特徴等を整理する

### 分布

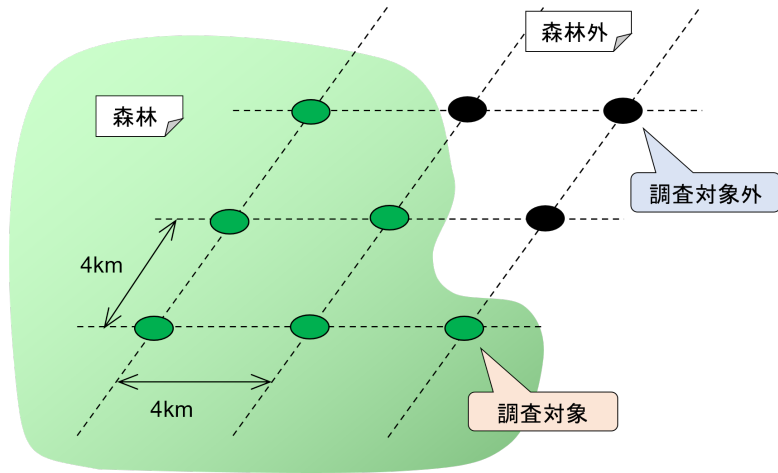
分布状況等をGISを用いて視覚的に表現



### (参考) NFIについて

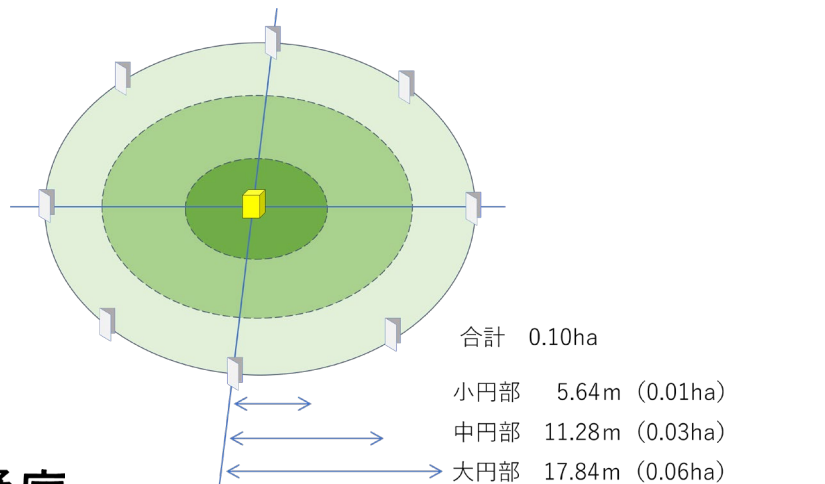
#### ■ 調査地点の設定方法

全国を4 kmメッシュで区切り、その交点に位置する森林を調査プロット (0.1haの円形) として約1万5千点設定。

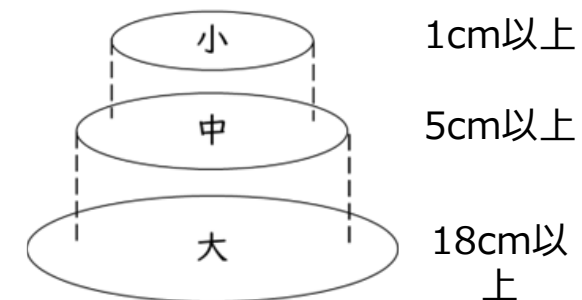


#### ■ 調査プロットの設定方法

調査プロットは小円部 (0.01ha)、中円部 (0.03ha)、大円部 (0.06ha) から構成され、それぞれの円部で異なる直径階の立木を測定対象としている。



計測対象とする胸高直径の閾値





### 樹種別（大分類32種、小分類49種）

#### ■ 資源量が多いもの

樹種（大分類）	樹種（小分類）	出現プロット数	合計本数
アラカシ	アラカシ	1,807	27,391
アベマキ	アベマキ	545	5,066
シラカシ	シラカシ	554	3,976
スダジイ	スダジイ	717	14,423
	イタジイ		
ツブラジイ	ツブラジイ	496	7,966
ウラジロガシ	ウラジロガシ	821	7,827
アカガシ	アカガシ	394	4,821

#### ■ 需要が大きいもの（人気のもの）

樹種（大分類）	樹種（小分類）	出現プロット数	合計本数
ハルニレ	ハルニレ	1,327	5,818
	オヒョウ		
サワグルミ	サワグルミ	403	2,599
ヤチダモ	ヤチダモ	631	2,570
	トネリコ		
トチノキ	トチノキ	577	2,148
クスノキ	クスノキ	422	1,417
オノオレカンバ	オノオレカンバ	101	811
ウバメガシ	ウバメガシ	158	5,535
ハンノキ類	ケヤマハンノキ	1,367	8,638
	ヤマハンノキ		
	ミヤマハンノキ		
	ハンノキ		
カツラ	カツラ	335	984

#### ■ 資源量が多く、かつ需要も大きいもの

樹種（大分類）	樹種（小分類）	出現プロット数	合計本数
コナラ	コナラ	3,796	50,360
ミズナラ	ミズナラ	3,710	37,314
ブナ類	ブナ	1,634	27,227
	イヌブナ		
ホオノキ	ホオノキ	3,516	15,761
クリ	クリ	2,820	13,377
サクラ類	ヤマザクラ	6,576	27,444
	オオヤマザクラ		
	エゾヤマザクラ		
	シウリザクラ		
	ウワミズザクラ		
	イヌザクラ		
イタヤカエデ	カスミザクラ	4,151	24,084
	イタヤカエデ		
	オニイタヤ		
	アカイタヤ		
ケヤキ	エゾイタヤ	1,053	4,835
	ケヤキ		
オニグルミ	オニグルミ	824	3,151
シラカンバ・ダケカンバ	シラカンバ	1,113	19,401
	ダケカンバ		
シナノキ	シナノキ	1,747	11,298
ミズキ	ミズキ	2,430	8,389
ウダイカンバ	ウダイカンバ	989	4,787
ミズメ	ミズメ	730	3,479
ハリギリ	ハリギリ	1,682	3,421
クヌギ	クヌギ	400	3,135



## 地域区分

地域	都道府県	プロット数
北海道	北海道	3,452
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	2,943
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川	931
中部	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知	2,714
近畿	三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1,421
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1,518
四国	徳島、香川、愛媛、高知	917
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	1,748

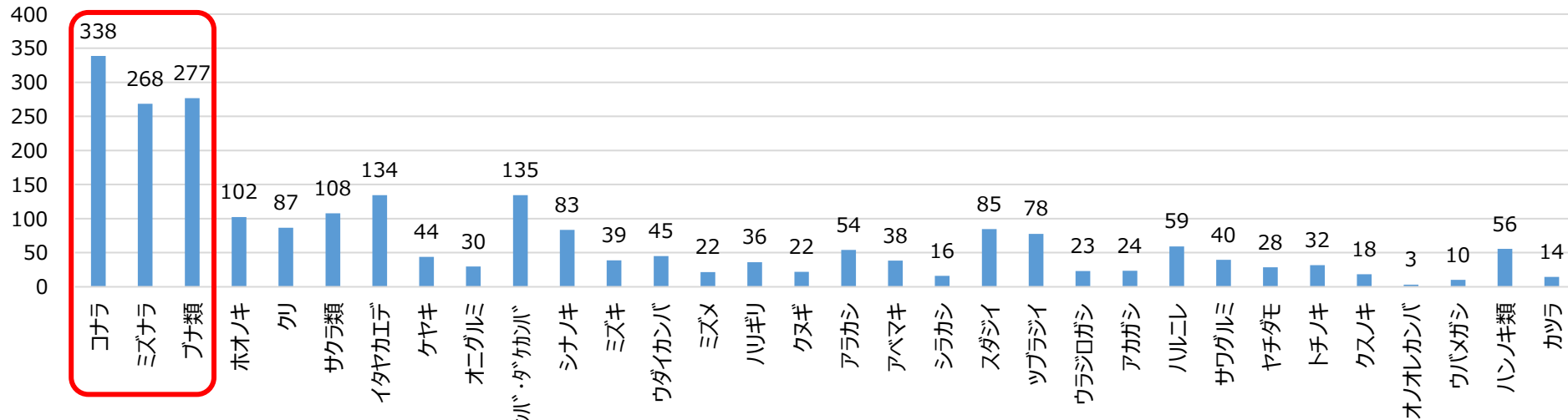


### 【参考】全国蓄積（推計）

(百万m<sup>3</sup>)

蓄積 (百万m<sup>3</sup>)

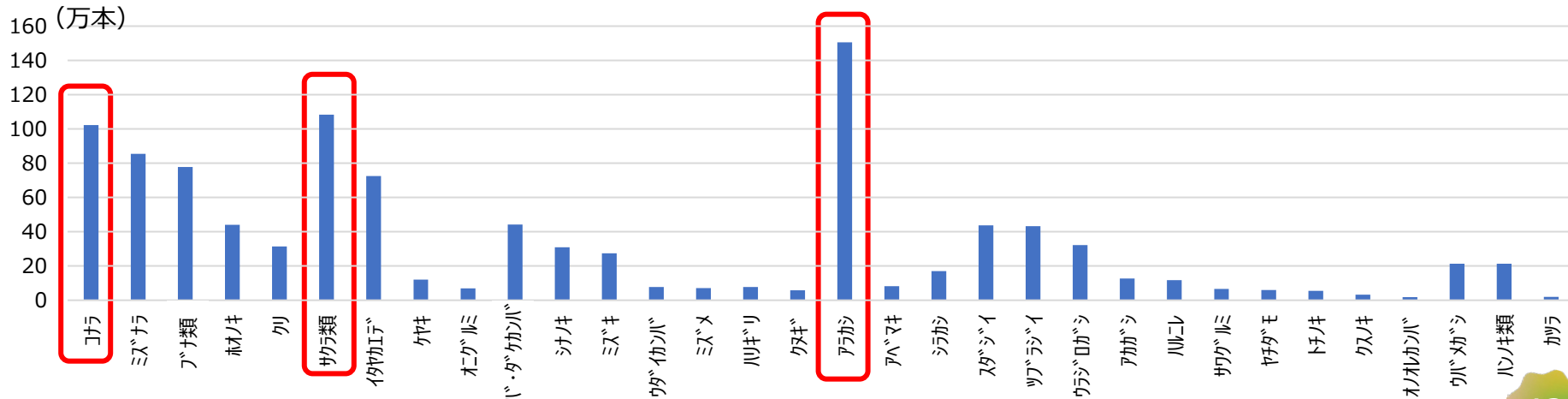
32樹種計 2,348百万m<sup>3</sup>



### 【参考】全国（本数）

(万本)

※調査プロットにおける本数をha換算したものの合計



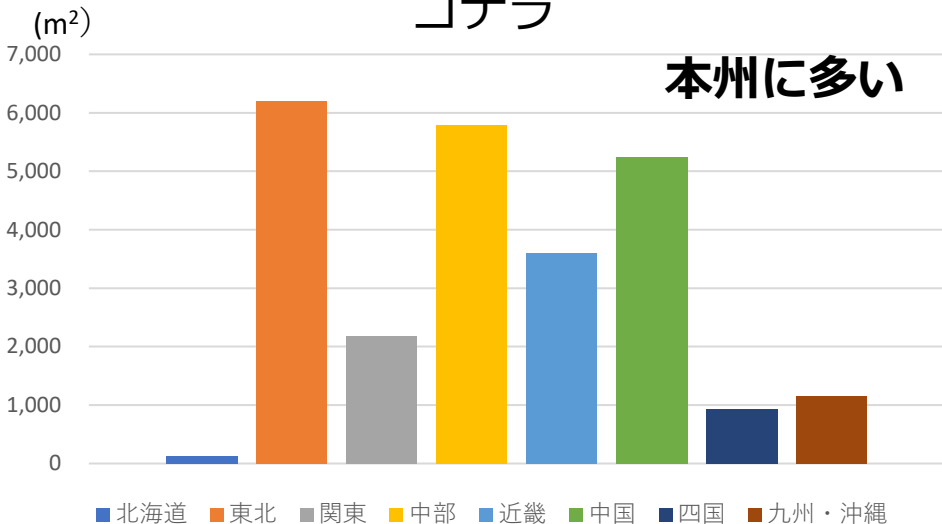


## 樹種毎の地域差（胸高断面積合計）

※調査プロットにおける胸高断面積合計をha換算したものの合計

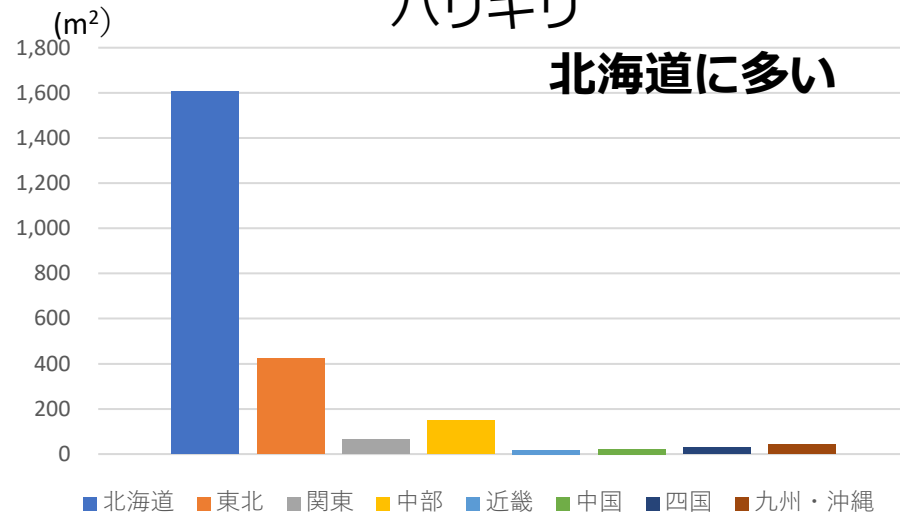
### コナラ

本州に多い



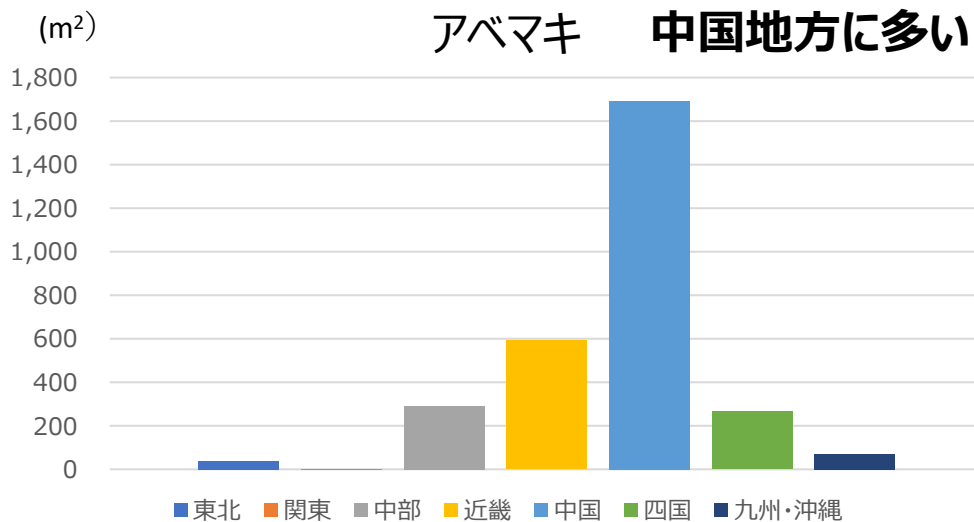
### ハリギリ

北海道に多い



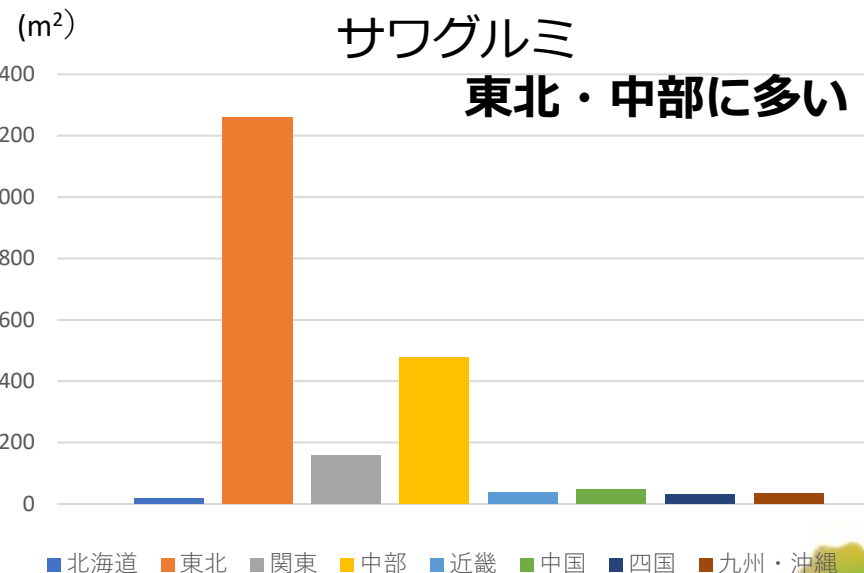
### アベマキ

中国地方に多い



### サワグルミ

東北・中部に多い

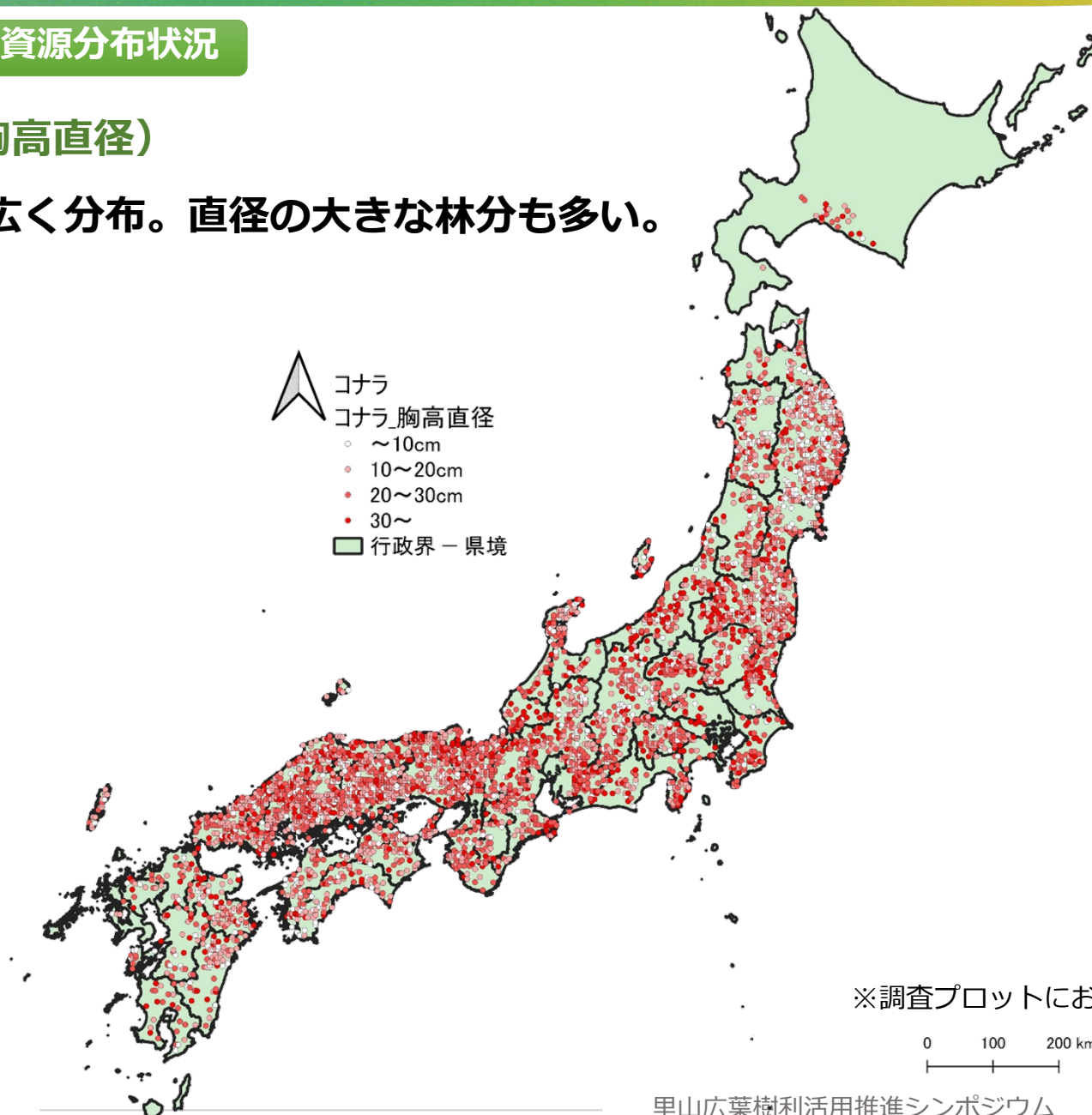




### 蓄積トップ3の資源分布状況

## コナラ（胸高直径）

本州以西に広く分布。直径の大きな林分も多い。

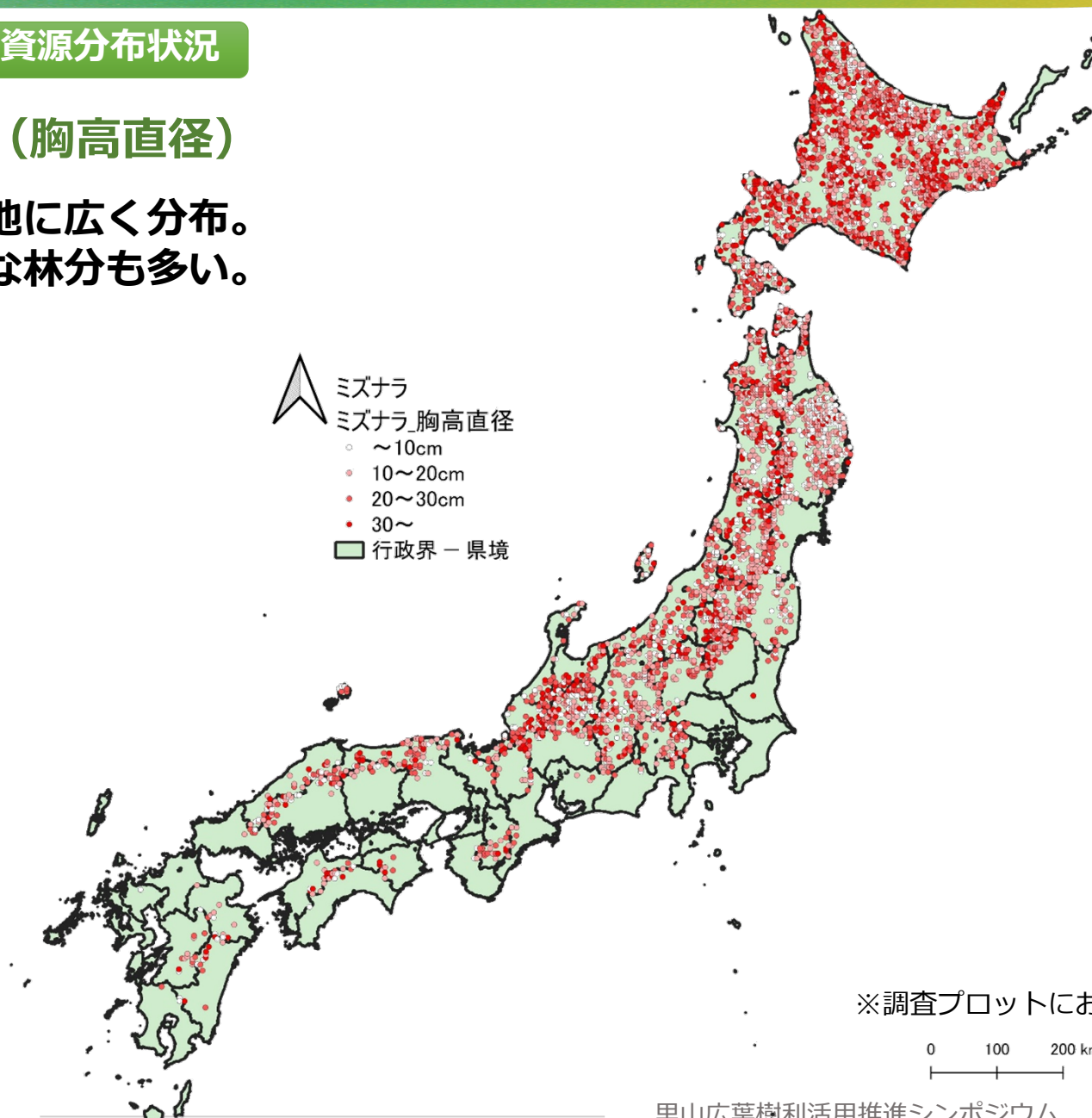




### 蓄積トップ3の資源分布状況

## ミズナラ（胸高直径）

北日本と山地に広く分布。  
直径の大きな林分も多い。

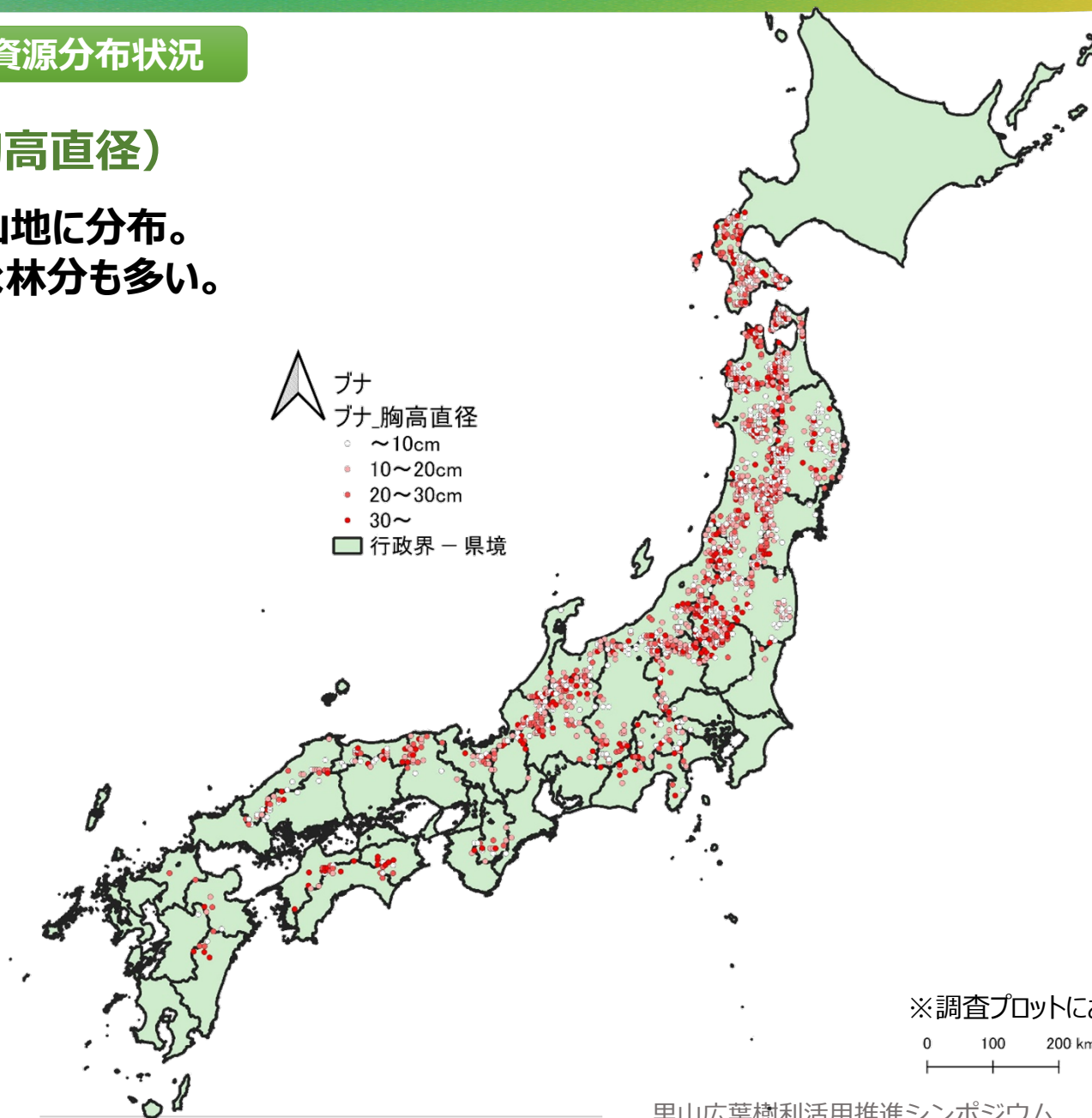




### 蓄積トップ3の資源分布状況

## ブナ類（胸高直径）

日本海側と山地に分布。  
直径の大きな林分も多い。

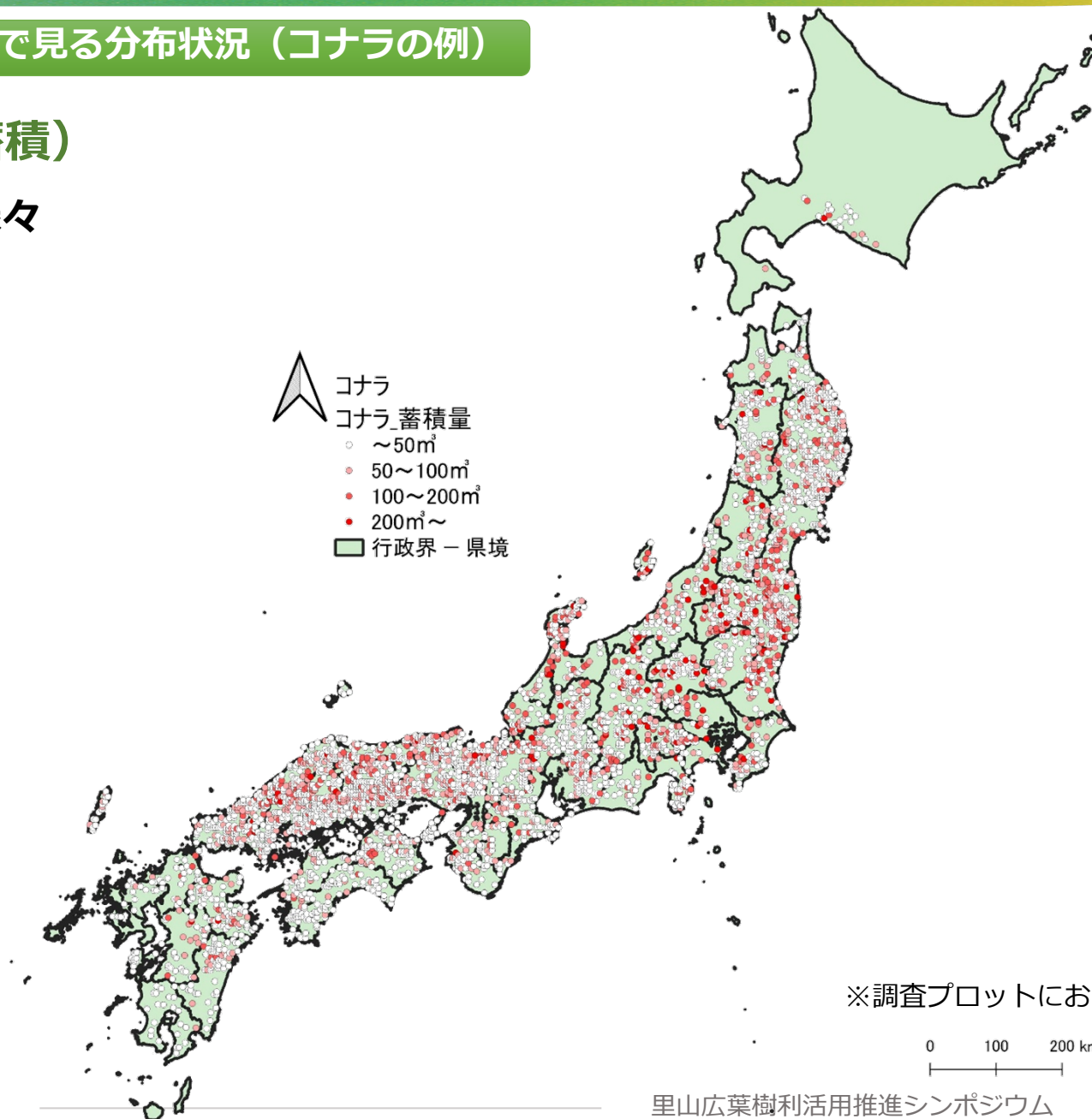




## その他のデータで見る分布状況（コナラの例）

### コナラ（蓄積）

蓄積量は様々

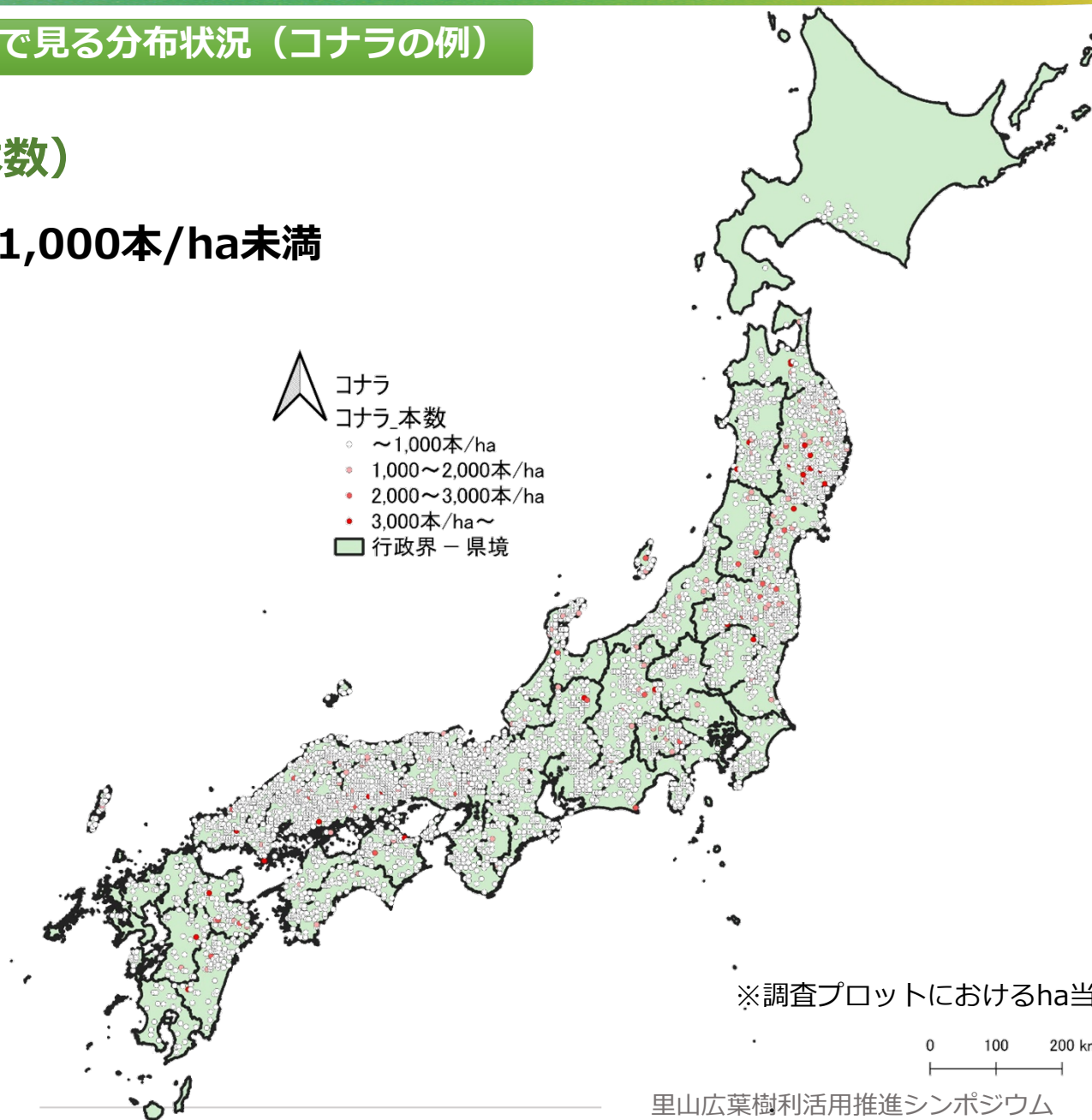




その他のデータで見る分布状況（コナラの例）

## コナラ（本数）

ほとんどが1,000本/ha未満

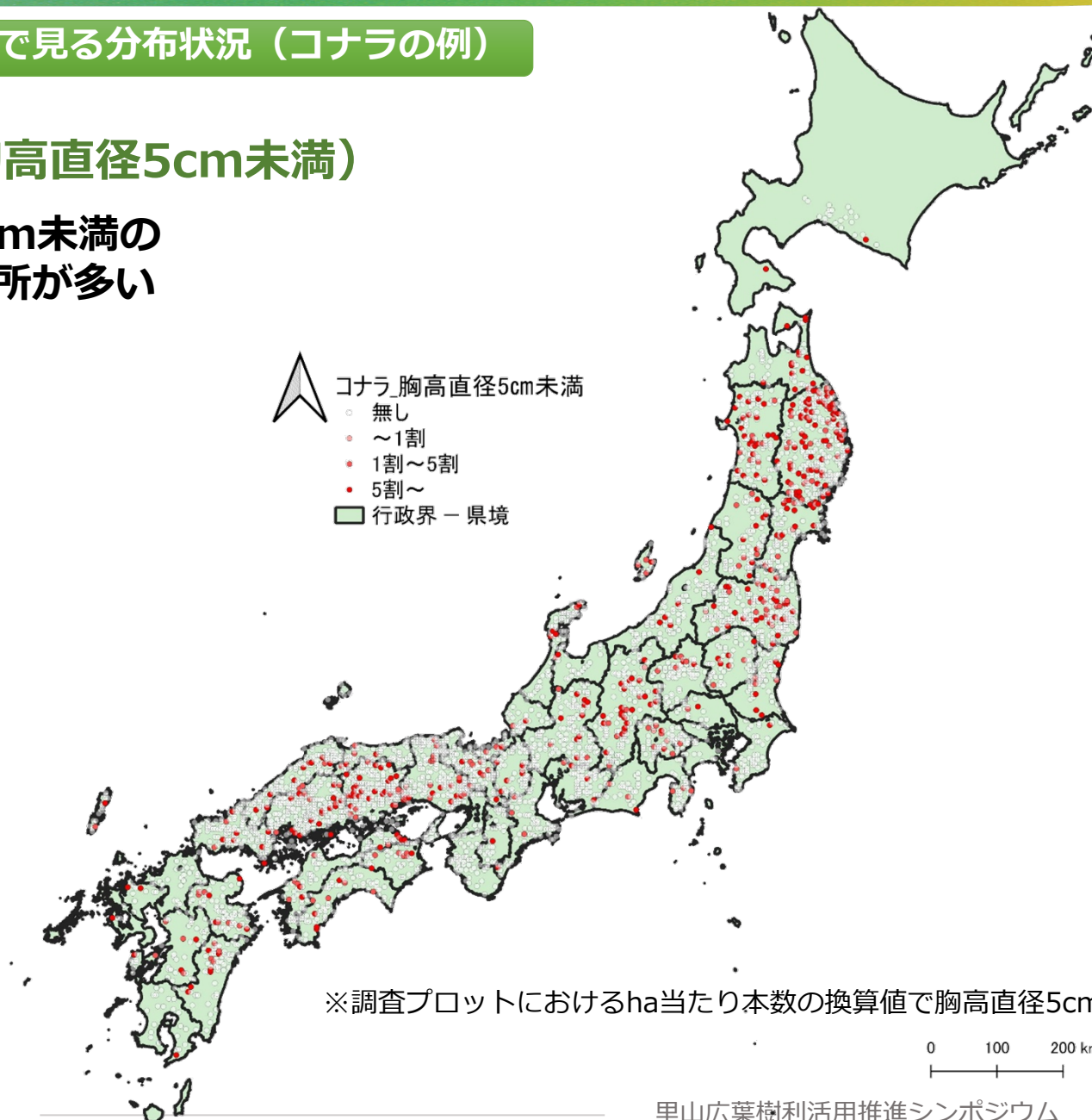




その他のデータで見る分布状況（コナラの例）

## コナラ（胸高直径5cm未満）

胸高直径5cm未満の  
木がない箇所が多い

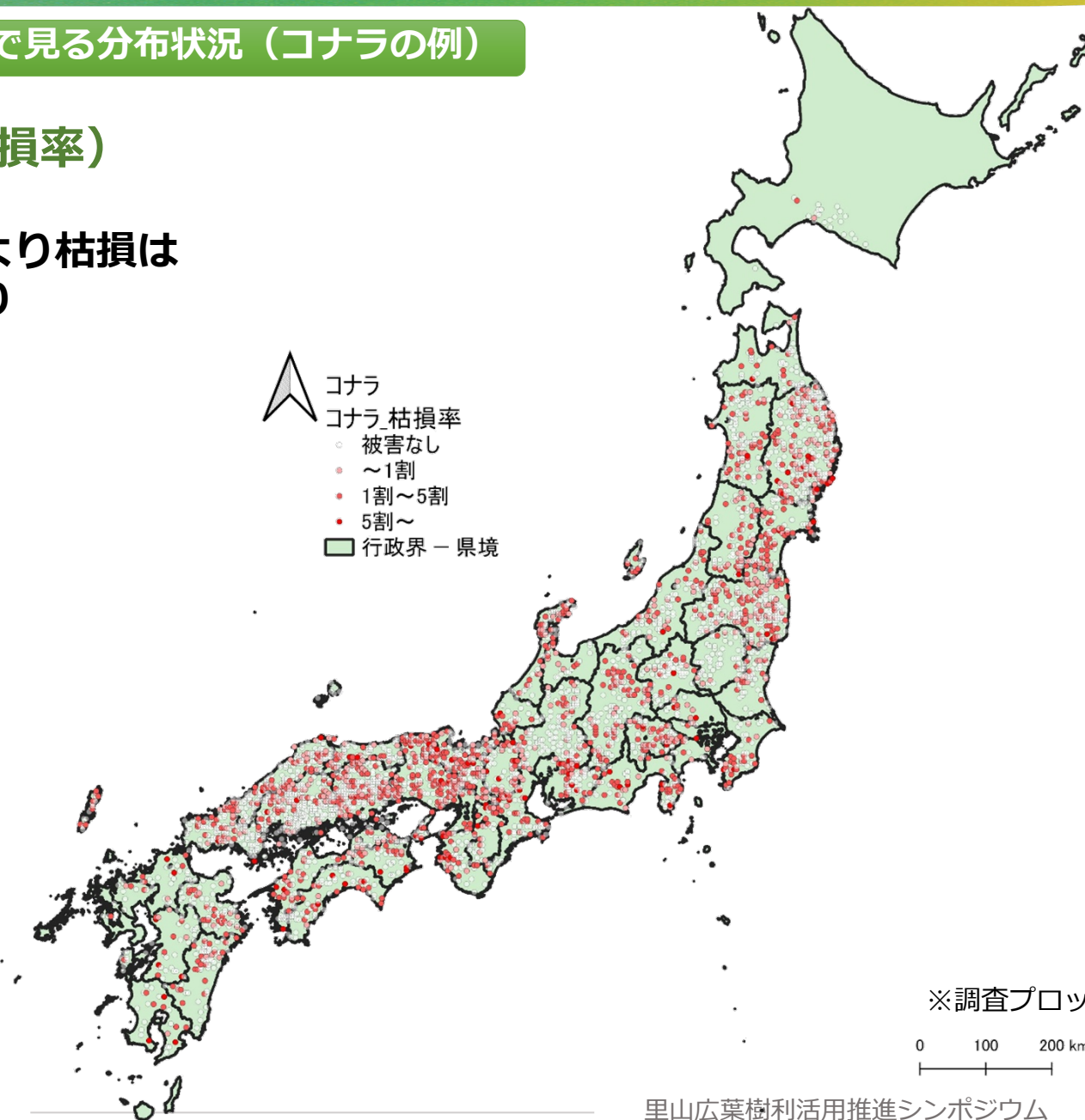




その他のデータで見る分布状況（コナラの例）

## コナラ（枯損率）

ナラ枯れにより枯損は  
全国に拡がり

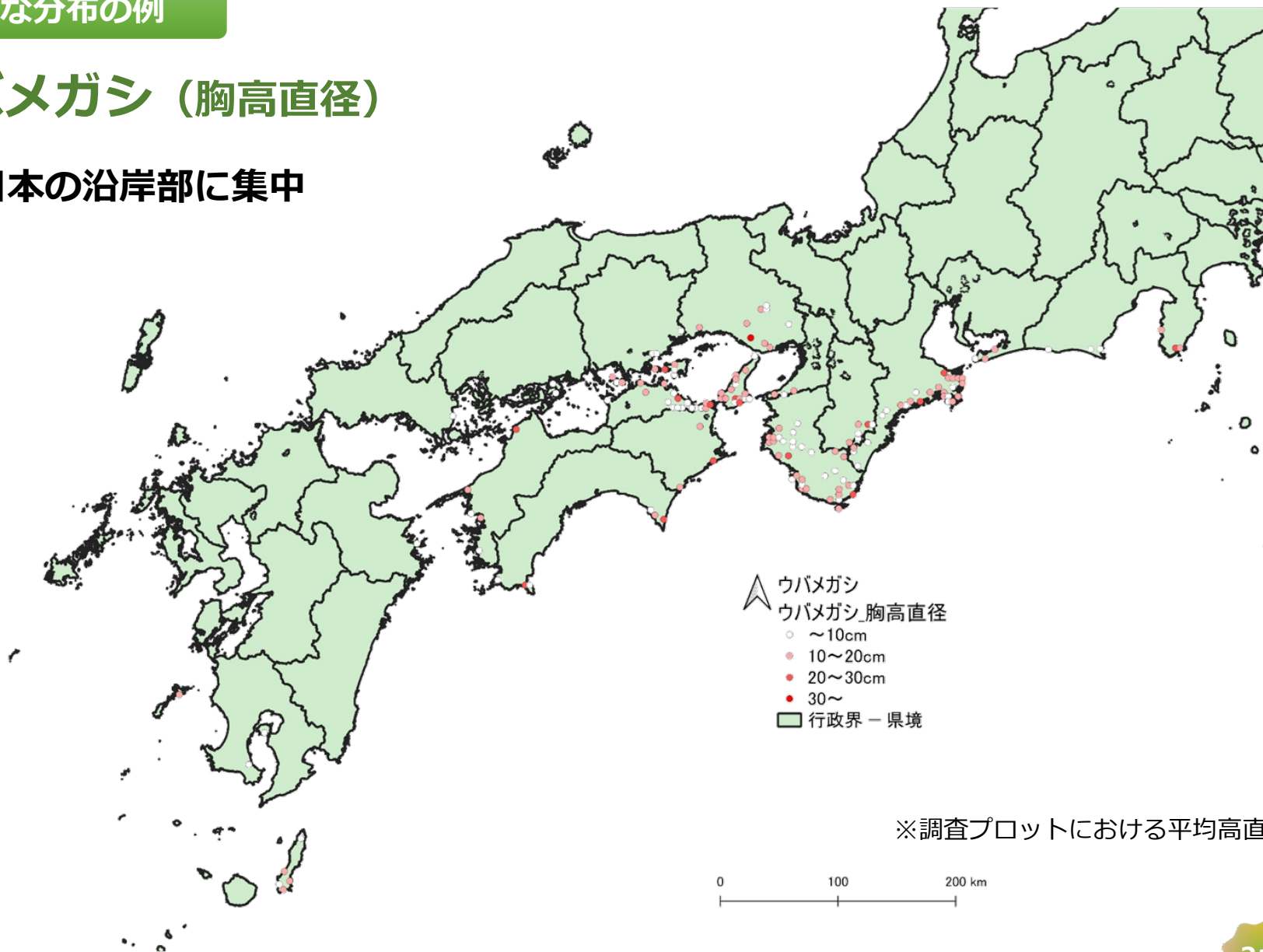




## 特徴的な分布の例

### ウバメガシ (胸高直径)

西日本の沿岸部に集中





## 経時変化

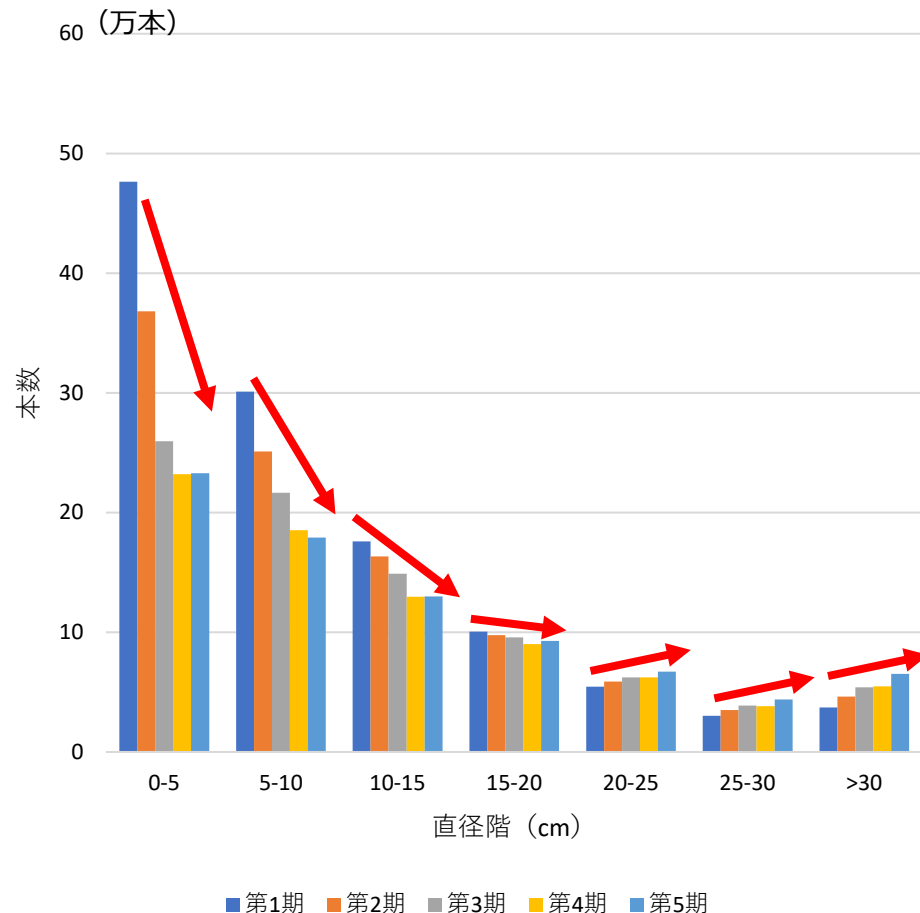
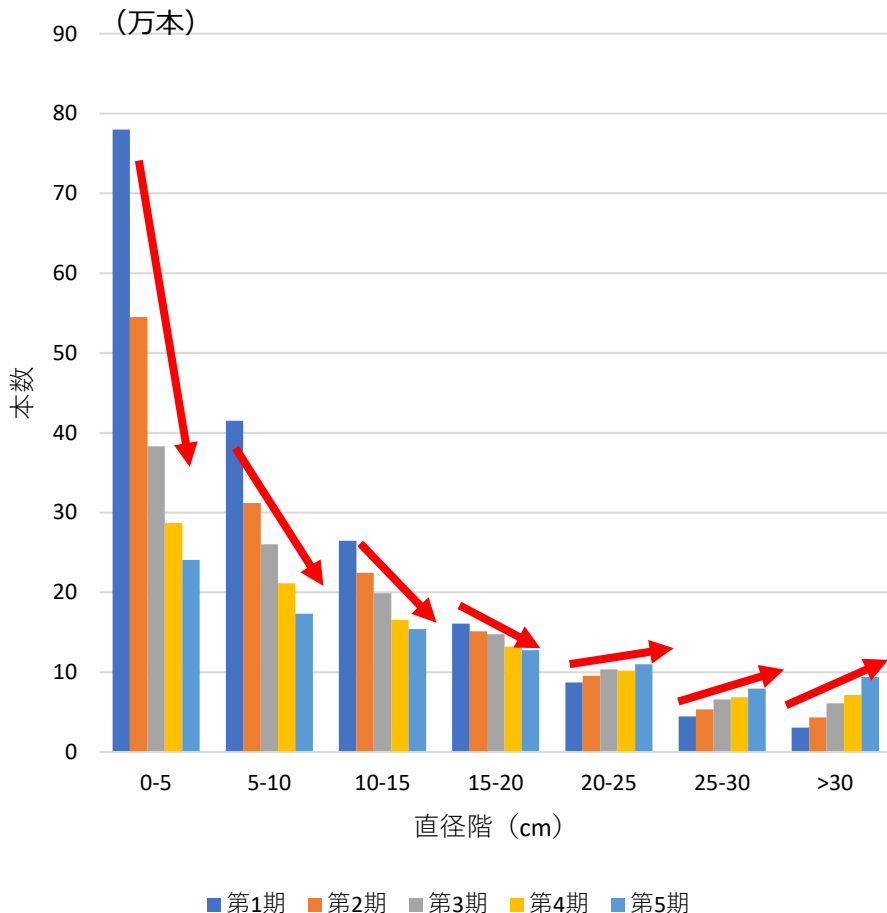
### コナラ、ミズナラ：小径木の減少と大径化

#### コナラ

#### ミズナラ

直径階別本数の時系列変化（コナラ・全国）

直径階別本数の時系列変化（ミズナラ・全国）



※調査プロットにおける本数を直径階に応じてha換算したものの合計



## 経時変化

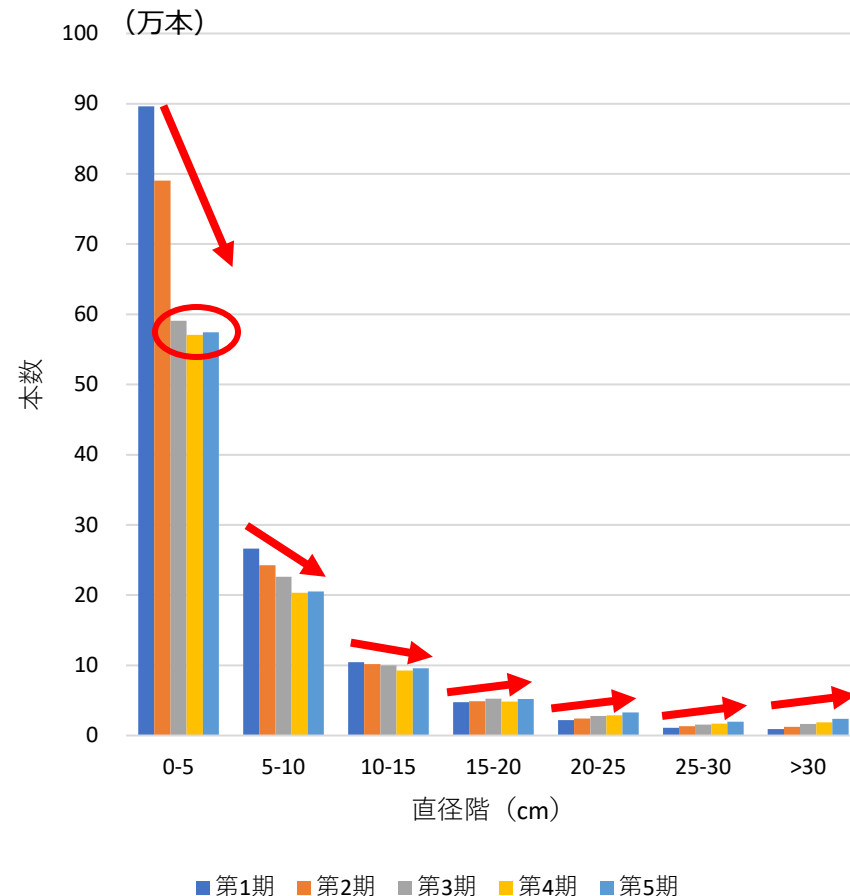
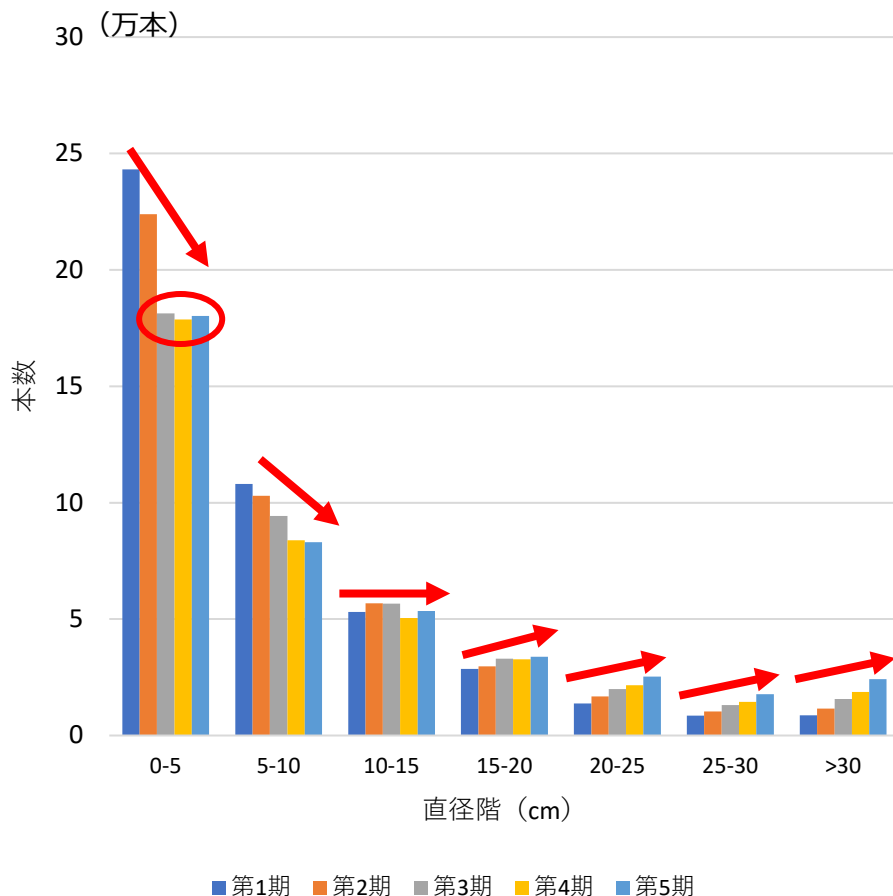
ホオノキ、サクラ類：比較的、大径木が少なく、小径木の減少も比較的少ない。点生や後から侵入？

### ホオノキ

### サクラ類

直径階別本数の時系列変化（ホオノキ・全国）

直径階別本数の時系列変化（サクラ類・全国）



※調査プロットにおける本数を直径階に応じてha換算したものの合計



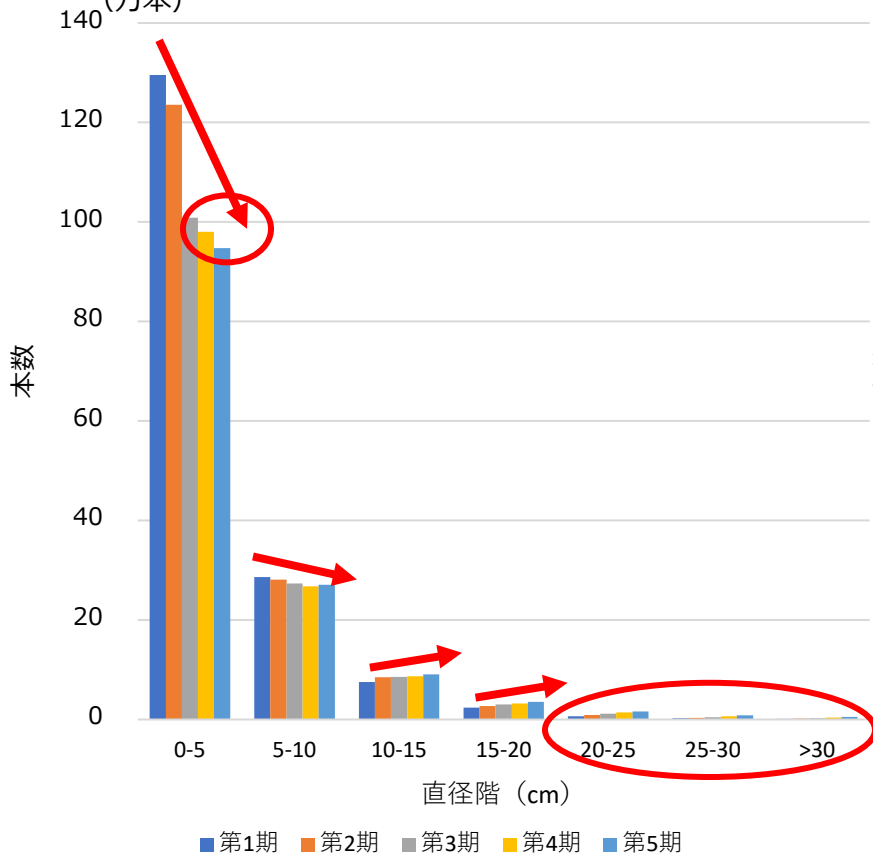
## 経時変化

アラカシ、シラカシ：比較的、直径の大きなものが少なく、小径木の減少も少ない。照葉樹への遷移の進行の影響？

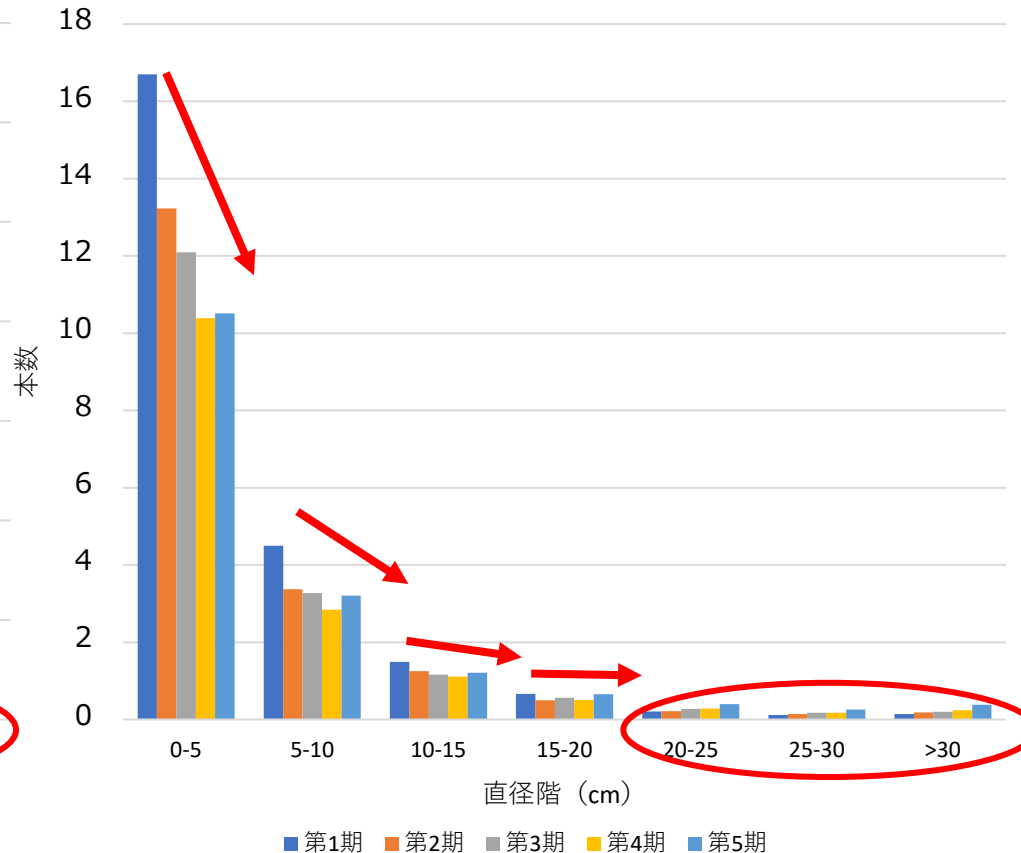
### アラカシ

### シラカシ

直径階別本数の時系列変化（アラカシ・全国）  
(万本)



直径階別本数の時系列変化（シラカシ・全国）  
(万本)



※調査プロットにおける本数を直径階に応じてha換算したものの合計



**今回紹介したのは、データのほんの一部**

**現在分析中で、今年度中に林野庁Webサイトにアップ予定**

**ご期待ください！！**



### 広葉樹の施業に係る文献の整理

Web上で閲覧可能なものを主体に、広葉樹の施業※に係るマニュアル、技術リーフレット、学术论文などについて、樹種、施業方法、要約、Webアドレス等を整理してリスト化。

※ 人工林への広葉樹導入含む

### 広葉樹の施業に係る試験地等の紹介

広葉樹の造林や天然更新等の施業※に係る試験地等について、全国7～8箇所程度、試験等の結果概要や見学のポイント等を整理して紹介。

※ 人工林への広葉樹導入含む

いずれも林野庁HPに掲載予定

林野庁

### 【文献リスト（抜粋）イメージ】

No.	文献名	区分	著者/公表先	発行年	ページ数
1	高齢コナラ林の伐採跡地にコナラ林を再生させるには～改訂版コナラ林更新伐のすすめ方～	マニュアル	富山県農林水産総合技術センター森林研究所	2025	45
2	大阪府 広葉樹の活用に向けた森林整備マニュアル	マニュアル	大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター		
3	もっとつかえる日本の広葉樹林	マニュアル	齊藤 哲、鈴木秀典、小谷英司、山下 直		

Webリンク



### 【試験地紹介（抜粋）イメージ】

#### 事例 有用広葉樹造成のための植栽試験林

見学ポイント：50年生の広葉樹植栽試験地における樹種比較⇐

名称：好摩実験林⇐

場所：岩手県盛岡市玉山区⇐

標高：205m⇐

樹種：サワグルミ、カツラ、トチノキ、ケヤキ他⇐

造成・施業：植栽、下刈り⇐

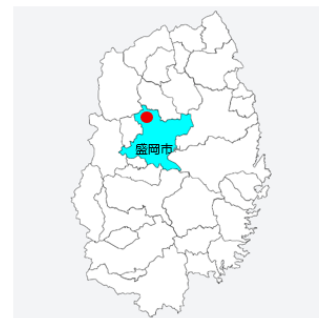
試験地設定：1974年⇐

施業方法：下刈り（植栽後5年間）⇐

調査内容：広葉樹有用樹種の樹種特性、造林特性⇐

目的⇐

旧植栽試験地においてサワグルミ、カツラ、トチノキ、ケヤキの有用広葉樹4樹種の樹種特性、造林特性を明らかにする。⇐





# 報告内容

- 1 令和7年度の活動内容
- 2 資源分析等の結果
- 3 プラットフォーム設立に向けて**  
チーム長 鈴木 清史  
(木材産業課 上席木材専門官)
- 4 広報活動



### ✓森林で働く人

森林組合、林業経営者、  
素材生産事業者 等

### ✓木材を利用する人

製材業、建築・内装材・家具・フローリン  
グ・楽器・伝統工芸製造業、きのこ生産  
者・種菌メーカー、薪炭製造業 等

### ✓プラットフォームの 趣旨に賛同する人

生物多様性保全への貢献等に関心  
のある民間企業・消費者団体 等

### ✓官・学で里山広葉樹の 利活用・再生に取り組む人

林野庁、都道府県、市町村、研究者 等



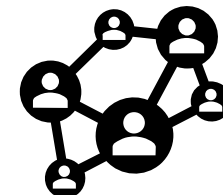
## 消費者・需要者への波及

エシカル消費、サーキュラーエコノミーを含めたニーズに対する価値の創造・提供



## 需給情報の共有とサプライチェーン構築に取り組みます

- ✓ 需要側の情報（樹種、製品に必要な規格・品質等）と、供給側の情報（伐採予定時期、樹種別の資源量等）を取りまとめ、これらの情報を相互に共有します。
- ✓ ビジネスマッチングの機会を提供します。



## 人材育成、環境貢献等の評価手法の検討に取り組みます

- ✓ 需要を踏まえた丸太の採材や、製材時の乾燥や加工技術など、技術の継承・人材の育成に取り組みます。
- ✓ 管理、利用による環境貢献等の評価手法の検討を行い、その手法を対外的に発信できるようにします。



## 里山広葉樹利活用の重要性を全国発信します

- ✓ SNS等により、里山広葉樹利活用の重要性を全国的に発信するとともに、取り組む事業者等の情報を、消費者等へ伝えるサポートを行います。





## プラットフォーム設立 (令和9年春頃)

### 本シンポジウムの開催

- 第一線で活躍されている方からの事例紹介とパネルディスカッションにより、里山広葉樹の利活用と再生について気運醸成
- プラットフォーム設立の構想を発表

一年後の設立  
を目指して  
活動中！



### PF参加者の募集 (本年12月頃～)

事業者・自治体の関係者に対するPF設立に向けた周知を行うとともに、里山広葉樹利活用への機運醸成を図るため一般企業や消費者にも働きかけ

### プラットフォームの具体化 (発起人会の下WGで検討)

取り組むべき内容について、さらなる文献調査、現地調査、関係者ヒアリングを通じて、どのような情報の取引が必要か、どのような人材が必要か、情報発信はどのように行うかなど、具体化に向けた取組を加速

### 里山広葉樹プラットフォーム設立準備 (本年5月頃～)

里山広葉樹プラットフォームに向けたコンセプトと実施体制の検討

### 発起人会の開催準備

設立の核になっていただく事業者の方々へ発起人の呼びかけを行っています。

<発起人として想定している分野>

川下：家具、楽器、スポーツ用品、伝統工芸品、薪炭、おが粉、チップ など

川中：原木市場、製材工場 など

川上：森林組合、素材生産事業体 など



# 報告内容

- 1 令和7年度の活動内容
- 2 資源分析等の結果
- 3 プラットフォーム設立にむけて
- 4 **広報活動**

広報ユニット長 熊谷 有理  
(経営企画課 課長補佐)



林野庁SNS

- X、Facebookで広葉樹利活用の事例を毎週水曜日に投稿



ネタ絶賛  
募集中!



林野庁X



林野庁Facebook



## BUZZ MAFF (ばずまふ)

- ・ もりチル～mori chill～ (林野庁 石塚) と連携



今後の活躍に  
乞うご期待！

クイズの答えはこちらから



もりチル  
チャンネル



普及コンテンツ

■パンフレット



林野庁

■PR動画



イベント等で  
ぜひご活用  
ください！



林野庁：広葉樹ページ

後ほど  
上映！



※シンポジウム当日の発表内容から一部修正しています

## 押し広葉樹ランキング

- ・本シンポジウムの参加者に質問

最も好きな広葉樹  
(押し広葉樹) と  
その理由を  
教えてください

有効票数 = **630**      樹種数 = **84**      箱押し = **12**

※複数押し有り。「特になし」や樹種以外の回答を除く。



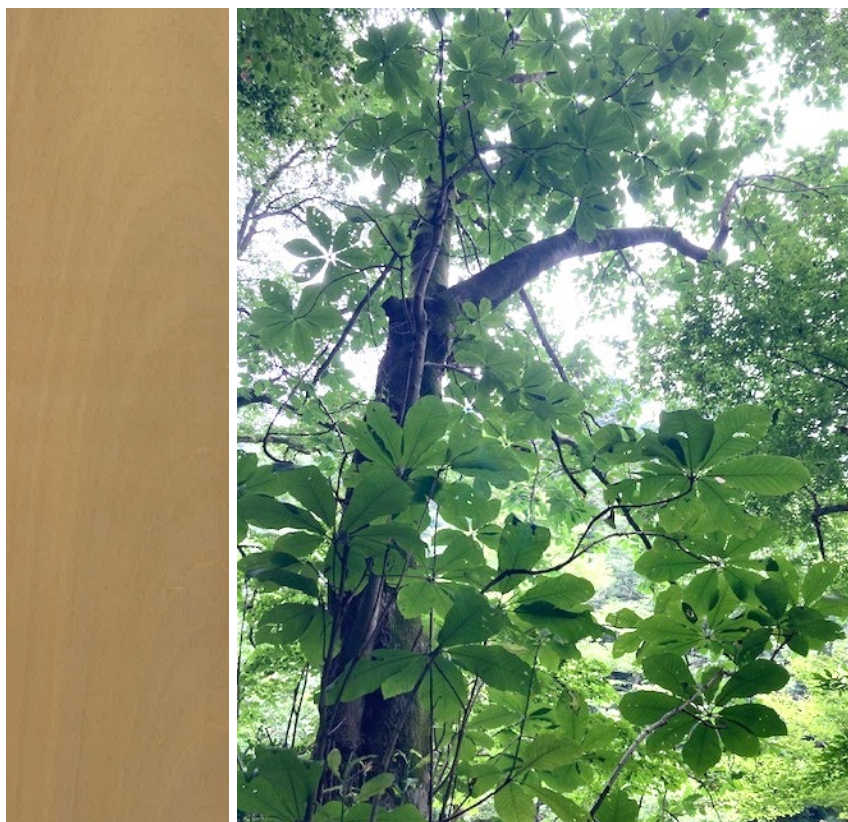
※シンポジウム当日の発表内容から一部修正しています

推し広葉樹ランキング

第5位

# ホオノキ【朴】

(得票数：29/630)



## ✓ 押しポイント

- 大きな葉っぱ
- 緑がかった材の色合い
- 美しい木目
- 加工のしやすさ
- 朴葉寿司（殺菌作用）  
など



※シンポジウム当日の発表内容から一部修正しています

押し広葉樹ランキング

第4位

# サクラ【桜】

(ヤマザクラ等)

(得票数：50/630)



## ✓ 押しポイント

- 美しい花
- 赤みのある材の色合い
- 美しい木目
- 加工のしやすさ
- 多様な用途（花、葉、木材）
- 愛されキャラ  
など



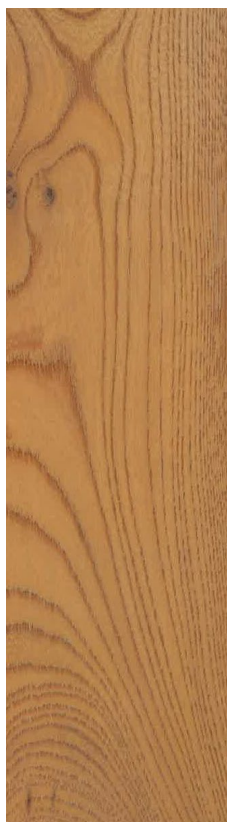
※シンポジウム当日の発表内容から一部修正しています

推し広葉樹ランキング

第3位

ケヤキ【欅】

(得票数：52/630)



✓ 推しポイント

- 身近な存在
- 美しい樹形
- 美しい木目
- 優れた性質、強度、耐久性
- 構造材としての利用可能性など



※シンポジウム当日の発表内容から一部修正しています

推し広葉樹ランキング

第2位

ブナ【樺】

(得票数：60/630)

※種レベルでは1位



✓ 推しポイント

- 美肌
  - ブナ林の美しさ、明るさ
  - 美しい木目
  - 水源涵養機能
- など

※シンポジウム当日の発表内容から一部修正しています

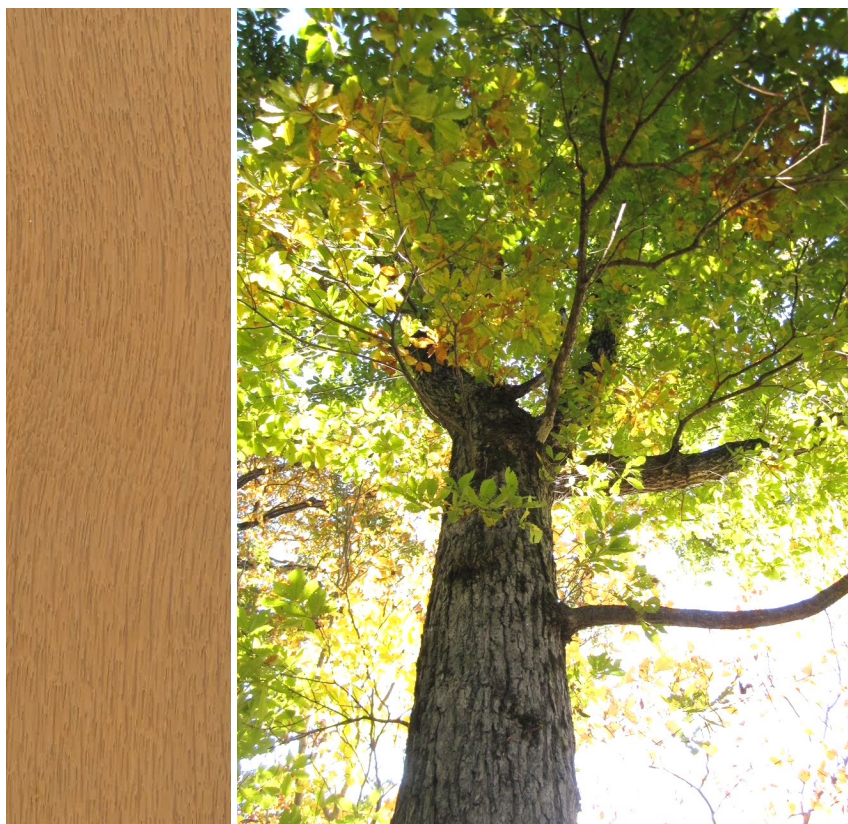
推し広葉樹ランキング

第1位

# ナラ 【樫】

(コナラ、ミズナラ)

(得票数：118/630)



## ✓ 推しポイント

- 美しい木目と色合い
- 重厚感
- 多様な用途  
(薪、しいたけ原木、家具等)
- 高い需要
- どんぐり、野生動物の食料など



※シンポジウム当日の発表内容から一部修正しています

押し広葉樹ランキング

単押し樹種一覧

アオダモ  
アオハダ  
アカガシ  
アカシデ  
アカメガシワ  
アサダ  
アズキナシ  
アブラチャン  
アブラツツジ  
アベマキ  
イスノキ  
イタヤカエデ  
ウダイカンバ  
ウバメガシ  
ウメ  
ウリハダカエデ  
ウルシ  
エゴノキ  
エゾヤマザクラ  
エノキ  
エンジュ  
オオシマザクラ

オニグルミ  
オノオレカンバ  
カキ  
カツラ  
カリン  
キハダ  
キリ  
クサギ  
クスノキ  
クヌギ  
クリ  
クロガネモチ  
クロモジ  
(オオバクロモジ含む)  
ケヤキ  
コシアブラ  
コナラ  
コバノミツバツツジ  
コブシ  
サカキ  
サワグルミ  
シナノキ

シラカシ  
シラカンバ  
スタジイ  
セイヨウハコヤナギ  
センダン  
ダケカンバ  
タブノキ  
タムシバ  
タラノキ  
チャンチン  
チャンチンモドキ  
ツゲ  
ツタ  
ツブラジイ  
トチノキ  
ナシ  
ナツツバキ  
ナナカマド  
ヌルデ  
ハシバミ  
ハナノキ  
ハマセンダン

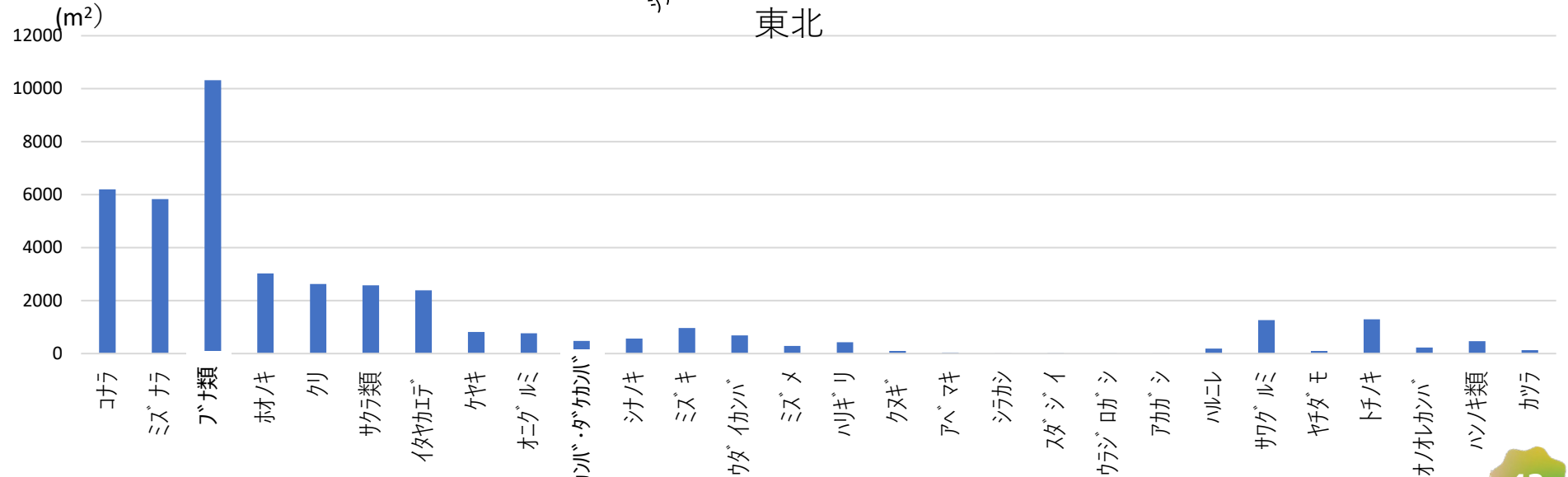
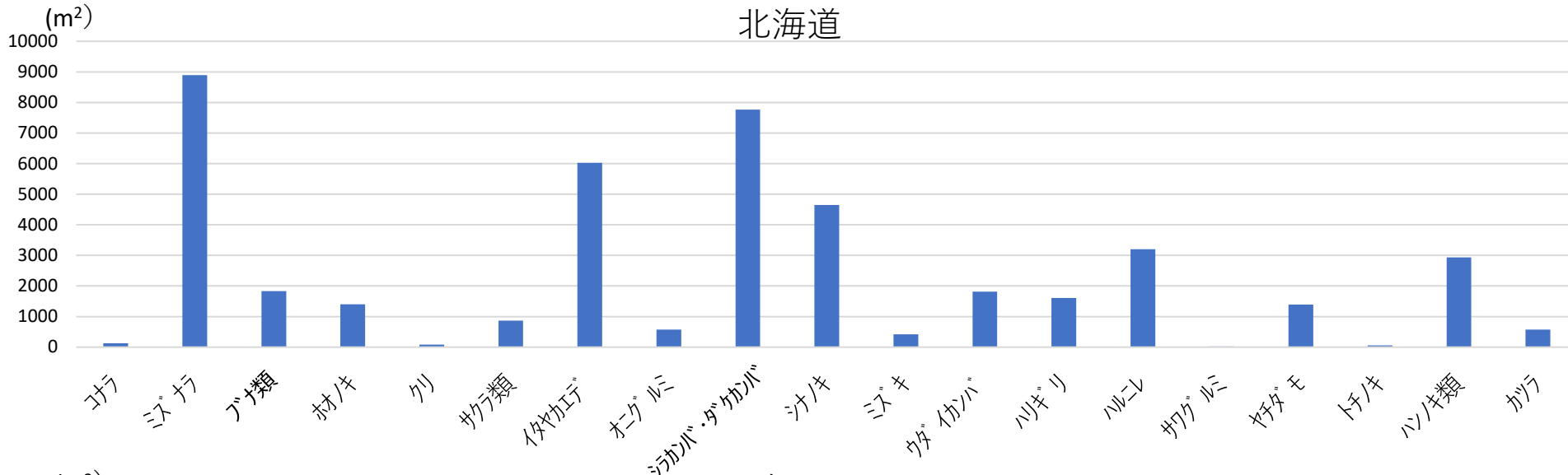
ハリギリ  
ハルニレ  
ハンノキ  
ヒイラギ  
ブナ  
ホオノキ  
マテバシイ  
ミズナラ  
ミズメ  
モクレン  
ヤチダモ  
ヤブコウジ  
ヤブツバキ  
ヤマザクラ  
ヤマモミジ  
ヤマモモ  
ユーカリ  
ユリノキ  
リョウブ

※この他、分類的には広葉樹ではないがイチョウとカヤの回答あり



地域毎の樹種の違い(胸高断面積合計)

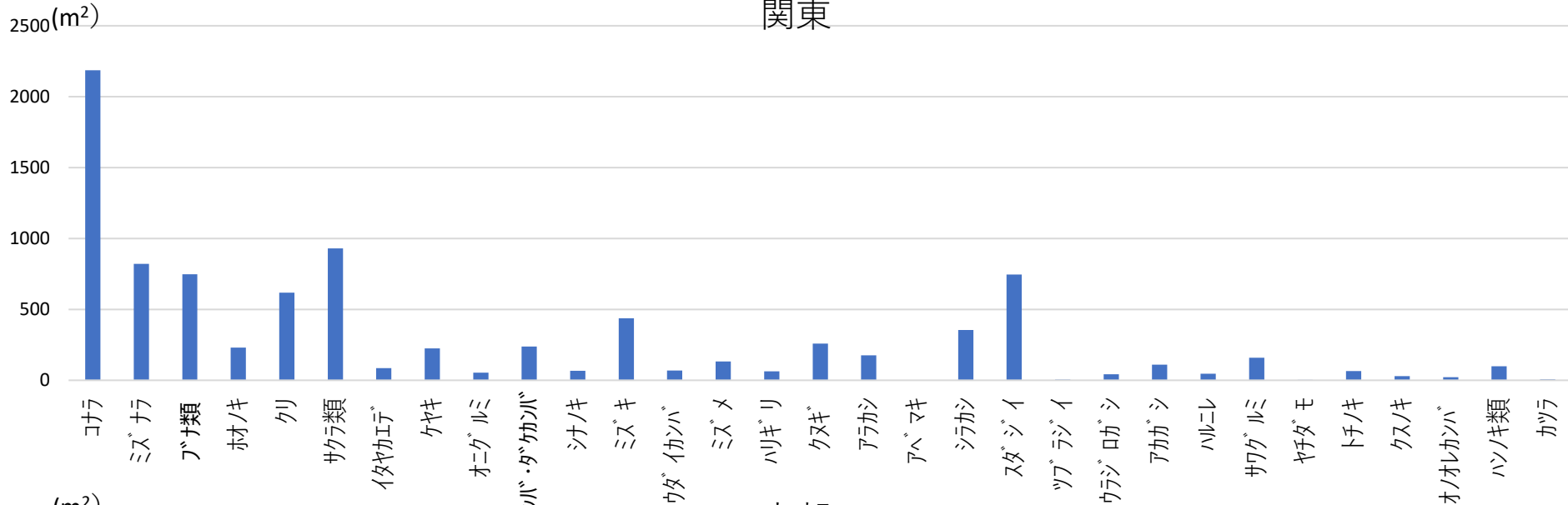
※調査プロットにおける胸高断面積合計をha換算したものの合計



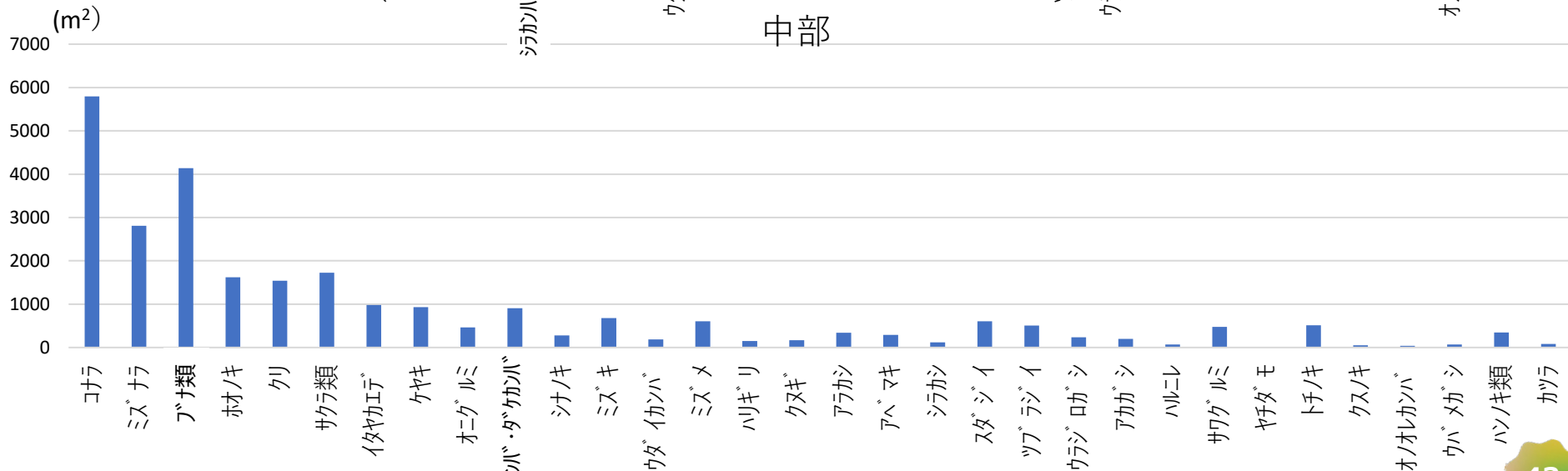


### 地域毎の樹種の違い(胸高断面積合計)

※調査プロットにおける胸高断面積合計をha換算したものの合計  
関東



中部



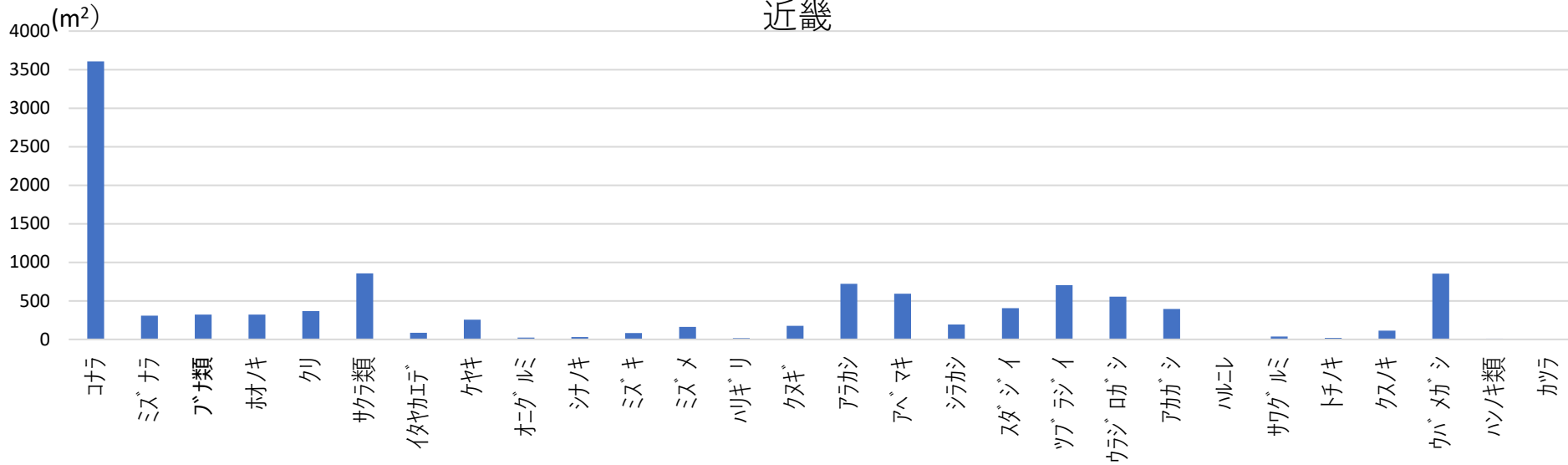
林野庁



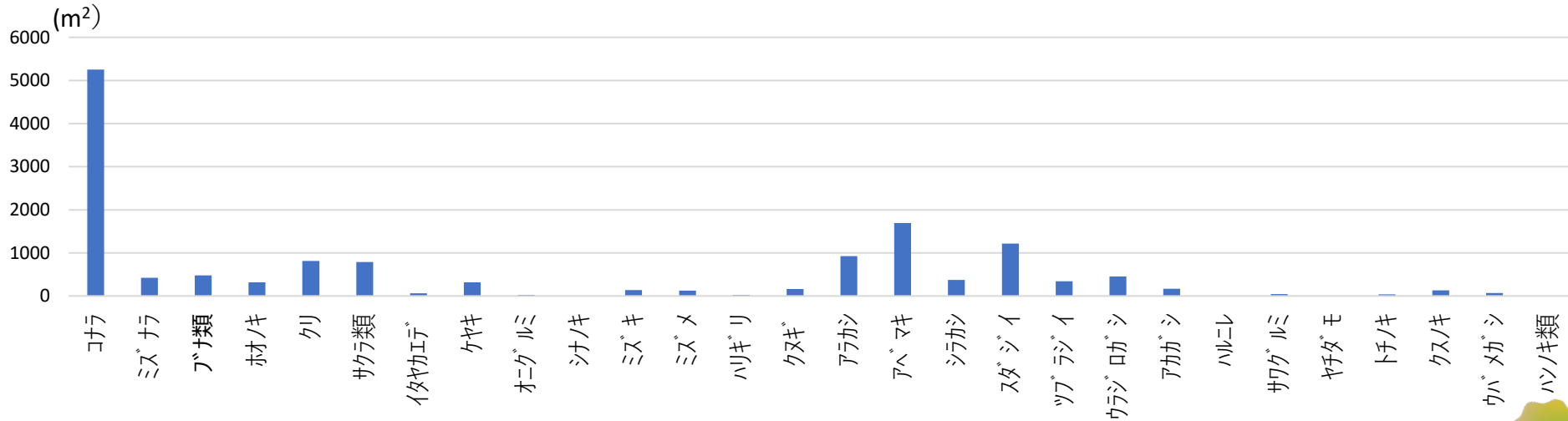
地域毎の樹種の違い(胸高断面積合計)

※調査プロットにおける胸高断面積合計をha換算したものの合計

近畿



中国

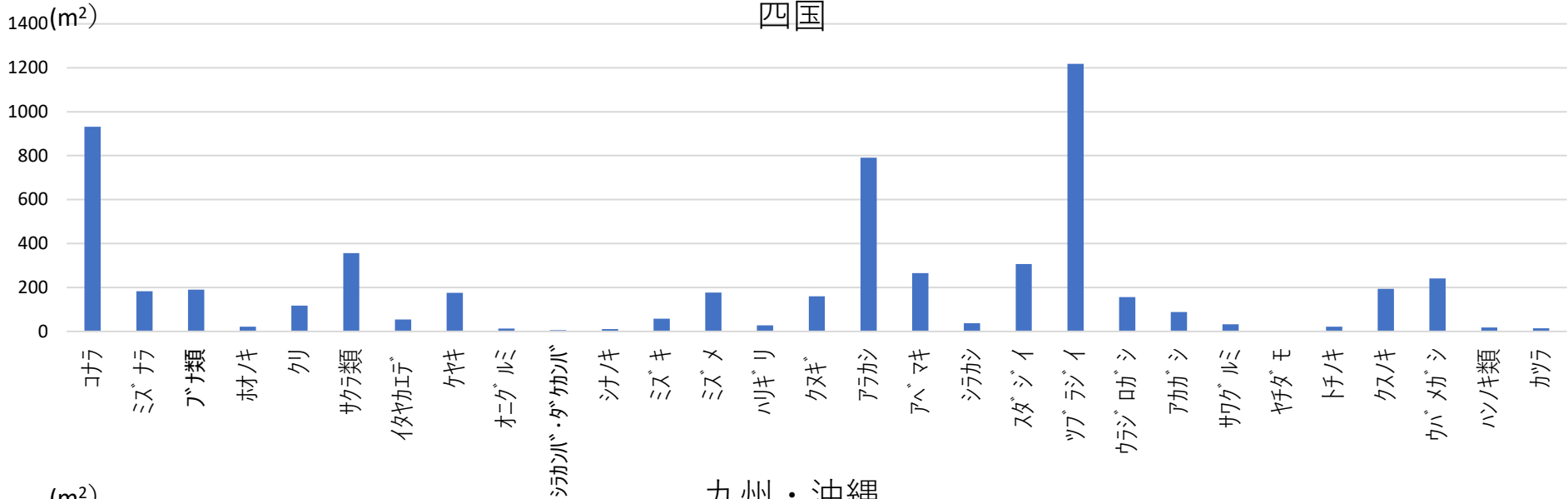




地域毎の樹種の違い(胸高断面積合計)

※調査プロットにおける胸高断面積合計をha換算したものの合計

四国



九州・沖縄

